

# 学生と社員が「共に学び、育ち合う」共育型インターンシップのプログラム開発

キーワード[インターンシップ / キャリア教育 / Institutional research]

教授 松坂 暢浩

## 共育型インターンシップのプログラム概要



本インターンシップの取組は、文部科学省が主催する第1回「大学等におけるインターンシップ表彰」にて文部科学大臣表彰「最優秀賞」(全国1位)を受賞しました。



<取組概要>  
 ✓ 早期からの就業体験を通して、キャリア意識を高め、働くことを考えることを目的に実施。  
 ✓ 地域中小企業の理解及び次年度以降のインターンシップ参加促進を目的し、山形県内の中小企業でインターンシップ(事前訪問1日・現場実習3日・振り返り1日)を行う。

評価のポイント

- 地域でのインターンシップの推進に向け、学生・企業が参加・受け入れやすくなることを目指し、積極的な取組での実施プログラムとするなど、インターンシップ推進に係る負担を軽減し、普及していくための工夫がなされている。さらに、県内中小企業における学生就職意向に対する意識改革にもつながっている点が高く評価できる。加えて、受業者数の一層の増加や、次年度以降のインターンシップの本格実施に向けた展望をより明確にすることが期待される。
- タグットを地場中小企業に絞り、「インターンシップ・プログラム」の基本フォーマットを山形県中小企業同業協会と協働して作成するなど、効果的な取組となるよう工夫を行っている。
- 受講者の選抜審査を実施し、キャリア意識や学修意欲、将来の職業選択等のプロセスと決定に関わる取組の理解を深めるとともに、就職意向による学生向けの「インターンシップマニュアル」の策定や、学習管理システムの活用により、効果的・効率的なインターンシップの取組がなされている。

(基本データ ※平成29年度実績)  
 ✓ インターンシップ参加人数/ 43人  
 ✓ 受入企業数/ 25社 (山形県中小企業同業協会加盟企業)  
 ✓ 実施年度/ 1年度【継続実施】

※教育文化庁大学(私大2校)が、本取組に参加している

## 内容:

本研究では、大学1年生を対象とした低学年向けインターンシップに着目し、インターンシップに参加した学生と受入先の中小企業の社員が「共に学び、共に育ち合う」共育型のプログラムを開発に取り組んでいます。具体的には、大学と中小企業団体が組織的に連携し、学生と受入企業の社員に対する人材育成の観点から、共育型のプログラム開発に取り組み、アンケートおよびインタビュー調査を通じて教育効果を検証を行っています。

これまでの効果検証では、参加学生のキャリア意識および社会人基礎力の向上が確認できています。また、受入企業の経営者らに対する調査から、共育型インターンシップの受入れを通して、学生を指導した社員の意識変化や組織活性化につながっていました。今後は、これらの知見を踏まえて、より教育効果の高いプログラム開発に取り組む予定です。

## アピールポイント:

本研究の成果は、我が国の低学年からのインターンシップ推進および産学連携による人材育成の発展につながると考えます。また、中小企業が抱える人材育成の課題として挙げられる社員教育としての活用も期待できます。

分野: 高等教育学、技術経営学  
 専門: キャリア教育、人的資源管理

E-mail : n-matsuzaka@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

Tel : 023-628-4899

HP : [https://yudb.kj.yamagata-u.ac.jp/html/100000429\\_ja.html](https://yudb.kj.yamagata-u.ac.jp/html/100000429_ja.html)  
<https://researchmap.jp/n.matsuzaka79>

